

2015年9月11日(金)

アジア各国の電気通信技術者・事業従事者に 光アクセス施工の技術者育成に関する講義を実施

株式会社協和エクシオ

株式会社協和エクシオ(本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：小園文典)では、このたび、当社も会員となっている、アジアを中心とする発展途上国の電気通信関係者の人材育成などを実施する特定非営利活動法人、BHN テレコム支援協議会* (所在地：東京都台東区、会長：佐藤征紀) が実施する「第17回 BHN 人材育成プログラム」の後期研修の一環として、9月10日、埼玉県和光市の当社中央技術研修センタにおいて、当社の社員が講師となりアジア8カ国の研修生8名(男性6名、女性2名)に光アクセス施工の技術者育成に関する講義を実施しました。

「BHN 人材育成プログラム」は、BHN テレコム支援協議会がアジアを中心とする発展途上国や新興国の将来の情報通信技術 (ICT) 事業を担う若手や中堅の人材を対象に、本プログラムを通じICTに関する基本から最先端までの知識とリーダーに必要なICT以外の幅広い関連知識を取得してもらい、それぞれの国の発展に寄与するバランスの取れた人材を育成するために、日本の進んだ技術と経験を活かした研修の機会を提供することを目的に1998年から実施しているもので、今回の研修を含めると、受講者は合計13カ国以上、130名に達しています。

17回目を迎えた本プログラムには、8カ国(バングラデシュ、カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、スリランカ、ウズベキスタン、ベトナム)から8名が参加。研修は前期、後期に分けて実施され、今回の当社中央技術研修センタでの研修は、約3週間にわたり実施している後期研修の一環として行われました。

会場となった中央技術研修センタは、当社の光アクセス施工をはじめとする情報通信ネットワーク構築に関する技術者育成の中核拠点で、新入社員をはじめ現場で活躍する中堅社員やグループ会社社員等に対し、基礎知識に関する講義から施設内での技術訓練、さらには屋外に設置した設備を使用した実戦訓練まで、アクセス工事に関するあらゆる施工技術を総体的に習得できるプログラムを実践しています。また近年は、工業高校や大学の体験実習に加え、海外からの視察要請も積極的に受け入れおており、「BHN 人材育成プログラム」の研修も、今回で8回目になります。

当日は、当社の光アクセス施工の技術者育成に関する講義を実施した後、宅内研修室やバケット車を使用して実施する架空施工作业の実習設備などのセンタ内の各施設を見学しました。

当社では、光アクセス工事をはじめとする情報通信ネットワークの構築分野において、今後もさらなる技術力の強化・向上ならびに人材育成を図るとともに、国内、さらにはアジアの情報通信産業の発展に積極的に寄与していきたいと考えています。

※特定非営利活動法人 BHN テレコム支援協議会 (認定 NPO 法人)

…NTT などの情報通信産業の関係者により、「情報通信分野で培われた技術を生かし、発展途上国の BHN (Basic Human Needs) 達成に向けての自助努力を支援する」目的で、1992年9月に設立。発展途上国の地域開発協力と医療施設への支援 (テレコム人道支援) や大規模災害の被災者や紛争による難民への緊急支援、さらには発展途上国電気通信関係者の人材育成などを実施している。2015年8月現在、法人会員63社、個人会員453名。所在地：東京都台東区上野5-24-11 NTT 上野ビル。会長：佐藤征紀。当社は、1997年から法人会員となっています。



写真は、講義の様子



写真は、施設見学の様子

本資料に関する報道機関からのお問い合わせ先
株式会社 協和エクシオ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-29-20 総務部 CSR・広報室
電話:03-5778-1075(直) FAX:03-5778-1228
担当:高柳 圭伸